

## 巻頭言 - 刊行に寄せて -

大学等高等教育機関の社会的役割が研究だけでなく教育にあることは当然であるが、従来、科学技術の進展を担う研究の役割が強調され、優れた研究者は優れた教育者であるとの認識が強かったことから、ややもすると、教育に対する関心が十分高まってこなかった。土木学会論文集は、土木界において科学的合理性に基づいて獲得された知識、経験、知恵を現在のみならず将来に活かすために編集された智の集約の具体的な姿である。今回、土木学会教育論文集が刊行される運びに至ったことは、教育部門の知識、経験、知恵を継続的に集約できる基盤ができたことを意味し、今後の土木界の教育に関する智の集約に重要なコアの役割を果たしていくと期待される。

現在、我が国の工学教育において強く求められるのは、職業技術者の教育と学位・資格を得るための達成度の評価、学位・資格の国際的同等性等をいかに確保し、国際的に活躍できる技術者を育てられるかだと考えられる。技術のみならず、製品、貿易障壁、入札等、幅広い分野で世界標準にターゲットを合わせた展開が迫られる現状において、産業界のみならず教育界においても広い視点から従来の慣行を大きく変える時期にさしかかっている。たとえば、従来のキャッチアップ方式の大量生産時代には、創意工夫能力が高くなくとも、均質な思考ができ、グループとしてまとまった行動の取れる技術者が必要とされた。産業界の学生に対する採用基準も、やる気があるとか、人柄に重点が置かれ、入社後は社内教育で社員を育てるキャリアパスが一般的であった。しかし、グローバリゼーションの進展とともに、Employability という表現に端的に示されるように、専門性と深い思索、健全な倫理観を持った技術者が要請されるようになってきている。さらに、企業の経営環境が大きく変化し、企業は社員を大事に育て上げ、長期雇用を維持する体力を維持できなくなりつつあると言われている。外部労働市場の整備がまだ不十分な我が国では、個人の能力をより発揮できる機会を求めて他の多様な職場に移動するという選択肢は少ないが、今後、持続的な経済発展を継続するためには外部労働市場の拡充と労働生産性を向上させる方向に向かわざるを得ないと考えられている。

このような中で、今後、多くの技術者がプロフェッショナルとして生涯を通じて多様な働き方を選択可能とするためには、確かな技術力と倫理観を基礎とし、Employability を身につけることが重要になってくる。そのためには大学等高等教育機関における教育や卒業後の継続教育に対して、今後、大きな変革が必要とされている。土木学会教育論文集が、我が国の土木界の教育関係における智の集約に大きな役割を果たし、貢献していくことを祈念するものである。

最後に、土木学会教育論文集の刊行に際して、多大なる努力を傾注された土木学会教育企画・人材育成委員会教育論文集編集小委員会の委員各位に深甚なる敬意と謝意を表するものである。

2009年3月

土木学会教育企画・人材育成委員会  
委員長 川島一彦